



国番号の設定

- [機能情報の確認](#) (1 ページ)
- [国番号の設定の前提条件](#) (1 ページ)
- [国番号の設定について](#) (2 ページ)
- [国番号の設定方法 \(CLI\)](#) (2 ページ)
- [国番号の設定例](#) (5 ページ)

機能情報の確認

ご使用のソフトウェアリリースでは、このモジュールで説明されるすべての機能がサポートされているとは限りません。最新の機能情報と注意事項については、ご使用のプラットフォームとソフトウェアリリースに対応したリリース ノートを参照してください。

プラットフォームのサポートおよびシスコ ソフトウェア イメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator には、<http://www.cisco.com/go/cfn> からアクセスします。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

国番号の設定の前提条件

- 通常、デバイスごとに1つの国番号を設定します。そのデバイスの物理的な場所とそのアクセス ポイントが一致しているコードを1つ設定します。デバイスごとに最大 20 の国番号を設定できます。これによって、複数の国がサポートされ、1つのデバイスからさまざまな国にあるアクセス ポイントを管理できます。
- multiple-country 機能を使用している場合、同じ RF グループに join する予定のすべてのデバイスは、同じ国のセットを同じ順序で設定する必要があります。
- アクセス ポイントは、使用可能なすべての法定周波数を使用できます。ただし、アクセス ポイントは関連するドメインでサポートされる周波数に割り当てられます。
- RF グループ リーダーに設定されている国リストによって、メンバーが動作するチャンネルが決定します。このリストは、RF グループメンバーに設定されている国とは無関係です。

- 日本の規制ドメインにあるデバイスの場合は、最後にデバイスをブートしたときにデバイスで設定した1つ以上の日本の国番号（JP、J2、またはJ3）を持っている必要があります。
- 日本の規制ドメインにあるデバイスの場合は、デバイスに join された -J 規制ドメインのアクセス ポイントを少なくとも1つ持っている必要があります。

国番号の設定について

コントローラおよびアクセスポイントは、法的な規制基準の異なるさまざまな国で使用できるように設計されています。アクセスポイント内の無線は、製造時に特定の規制区域に割り当てられています（ヨーロッパの場合にはEなど）。しかし、Country Codeを使用すると、稼働する特定の国を指定できません（フランスの場合にはFR、スペインの場合にはESなど）。国番号を設定すると、各無線のブロードキャスト周波数帯域、インターフェイス、チャンネル、および送信電力レベルが国別の規制に準拠していることを確認できます。

日本の国番号について

国番号は、各国で合法的に使用できるチャンネルを定義します。日本で使用できる Country Code は、次のとおりです。

- JP：コントローラに join できるのは、-J 無線のみです。
- J2：コントローラに join できるのは、-P 無線のみです。
- J3：WLCに join できるのは、-U、-P、および-Q（1550/1600/2600/3600 以外）無線ですが、-Uの周波数を使用します。
- J4：コントローラに join できるのは、2.4G JPQU および 5G PQU です。



(注) 1550、1600、2600、および 3600 AP には J4 が必要です。

日本の規制区域のアクセスポイントでサポートされているチャンネルと電力レベルの一覧については、『*Channels and Maximum Power Settings for Cisco Aironet Lightweight Access Points*』を参照してください。

国番号の設定方法（CLI）



(注) デバイス GUI を使用してこのタスクを実行する手順は現在利用できません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device# enable	特権 EXEC モードを開始します。
ステップ 2	show wireless country supported 例： Device# show wireless country supported	すべての使用可能な国番号のリストを表示します。
ステップ 3	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	ap dot11 24ghz shutdown 例： Device(config)# ap dot11 5ghz shutdown	802.11a ネットワークをディセーブルにします。
ステップ 5	ap dot11 5ghz shutdown 例： Device(config)# ap dot11 24ghz shutdown	802.11b/g ネットワークをディセーブルにします。
ステップ 6	ap country country_code 例： Device(config)# ap country IN	特定の国にアクセスポイントを割り当てます。 (注) 選択した Country Code が、アクセスポイントの無線のうち少なくとも1つの無線の規制ドメインに適合していることを確認します。
ステップ 7	end 例： Device(config)# end	特権 EXEC モードに戻ります。また、Ctrl+Z キーを押しても、グローバル コンフィギュレーションモードを終了できます。
ステップ 8	show wireless country channels 例： Device# show wireless country channels	デバイスに設定された国番号の使用可能なチャンネルのリストを表示します。 (注) ステップ 6 で複数の国番号を設定した場合にのみ、ステップ 9 ~ 17 を実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 9	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 10	no ap dot11 5ghz shutdown 例： Device(config)# no ap dot11 5ghz shutdown	802.11a ネットワークをイネーブルにします。
ステップ 11	no ap dot11 24ghz shutdown 例： Device(config)# no ap dot11 24ghz shutdown	802.11b/g ネットワークをイネーブルにします。
ステップ 12	end 例： Device(config)# end	特権 EXEC モードに戻ります。また、Ctrl+Z キーを押しても、グローバル コンフィギュレーションモードを終了できます。
ステップ 13	ap name Cisco_AP shutdown 例： Device# ap name AP02 shutdown	アクセスポイントをディセーブルにします。 (注) 国番号を設定しているアクセスポイントのみをディセーブルにすることを確認します。
ステップ 14	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 15	ap country country_code 例： Device# ap country IN	アクセスポイントを特定の国に割り当てます。 (注) 選択した国番号が、アクセスポイントの無線のうち少なくとも1つの無線の規制ドメインに適合していることを確認します。

